

ユネスコスクールと 持続発展教育（ESD）について



2010年3月
日本ユネスコ国内委員会

■ ユネスコ憲章（前文）

この憲章の当事国政府は、その国民に代わって次のとおり宣言する。

戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない。相互の風習と生活を知らないことは、人類の歴史を通じて世界の諸人民の間に疑惑と不信をおこした共通の原因であり、この疑惑と不信のために、諸人民の不一致があまりにもしばしば戦争となった。ここに終りを告げた恐るべき大戦争は、人間の尊厳・平等・相互の尊重という民主主義の原理を否認し、これらの原理の代わりに、無知と偏見を通じて人間と人種の不平等という教義をひろめることによって可能にされた戦争であった。文化の広い普及と正義・自由・平和のための人類の教育とは、人間の尊厳に欠くことのできないものであり、且つすべての国民が相互の援助及び相互の関心の精神をもって果さなければならない神聖な義務である。政府の政治的及び経済的取極のみに基づく平和は、世界の諸人民の、一致した、しかも永続する誠実な支持を確保できる平和ではない。よって平和は、失われないためには、人類の知的及び精神的連帯の上に築かなければならない。これらの理由によって、この憲章の当事国は、すべての人に教育の充分で平等な機会が与えられ、客観的真理が拘束を受けずに探究され、且つ、思想と知識が自由に交換されるべきことを信じて、その国民の間における伝達の方法を発展させ及び増加させること並びに相互に理解し及び相互の生活を一層真実に一層完全に知るためにこの伝達の方法を用いることに一致し及び決意している。その結果、当事国は、世界の諸人民の教育、科学及び文化上の関係を通じて、国際連合の設立の目的であり、且つその憲章が宣言している国際平和と人類の共通の福祉という目的を促進するために、ここに国際連合教育科学文化機関を創設する。

■ 日本ユネスコ国内委員会

日本ユネスコ国内委員会（以下、国内委員会と言う）は、「ユネスコ活動に関する法律」（昭和27年法律第207号）に基づき、文部科学省内に置かれる特別の機関です。国内委員会は、我が国におけるユネスコ活動に関する助言、企画、連絡及び調査を行う機関として、関係省庁や関係機関と協力し、ユネスコ活動の推進に取り組んでいます。

国内委員会では現在、ESDを重要推進課題として捉え、その普及促進に取り組んでいます。日本ユネスコ国内委員会の取組については、下記のURLをご参照ください。

日本ユネスコ国内委員会ホームページ：<http://www.mext.go.jp/unesco/>

目次

1. 持続発展教育（ESD）とは

- ・概要 P.1
- ・目標 P.2
- ・育みたい力
- ・学び方・教え方
- ・我が国が優先的に取り組むべき課題
- ・新しい学習指導要領案とESD P.3
- ・教育振興基本計画とESD P.4

2. ESDとユネスコスクール

- ・ユネスコスクールとは P.5
- ・ユネスコスクールの活動目的
- ・参加資格
- ・参加校に求められること
- ・ユネスコスクールはESDの推進拠点です P.6
- ・ユネスコスクール加盟のメリット P.7
- ・ユネスコスクール ホームページ P.8
- ・ユネスコスクール（ASPnet）申請方法 P.9
- ・ユネスコスクール参加校からの声 P.10

3. ESDで期待される取組例

- ・小学校・中学校・高校におけるESD実践の例 P.13
- ・学びのベースとなる「地域・学校・専門機関との連携」の例 . . . P.14

4. ESDの取組事例

- ・各学年に応じた体系的・探求的プログラム P.15
- ・郷土愛をつなぐESD P.16
- ・地域・学校・専門機関との連携 P.17
- ・ユネスコスクール支援大学間ネットワーク P.18
- ・教科間のつながりの構築（ESDカレンダー） P.19
- ・参考教材 P.20

（参考）

- ・国内のユネスコ関係機関 P.21
- ・日本のユネスコスクール P.22
- ・日本のユネスコスクール一覧 P.23

※ ユネスコスクールは「ユネスコ・スクール」と表記されていましたが、「ユネスコ」と「スクール」の別々の概念を単に並べた表現であるという指摘を受けることがあり、一つの概念の表現であることはっきりさせるために、「ユネスコスクール」と表記することが平成22年3月に日本ユネスコ国内委員会承認されました。

1. 持続発展教育※¹（ESD）とは

～ Education for Sustainable Development ～

ESDは持続可能な社会の担い手を育む教育です。

ESDの実施には、特に次の2つの観点が必要です。

- ▶ 人格の発達や、自律心、判断力、責任感などの人間性を育むこと
- ▶ 他人との関係性、社会との関係性、自然環境との関係性を認識し、「関わり」、「つながり」を尊重できる個人を育むこと

そのため、環境教育、国際理解教育等の持続可能な発展に関わる諸問題に対応する個別の分野にとどまらず、環境、経済、社会、文化の各側面から学際的かつ総合的に取り組むことが重要です。

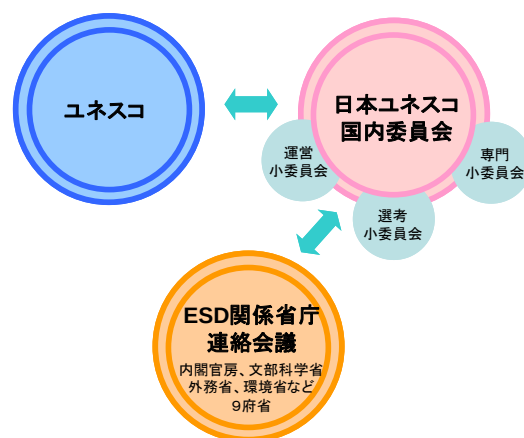
2002年の国連総会において、我が国の提案により、2005年から2014年までの10年間で「国連持続可能な発展のための教育（ESD）の10年」とすることが決議され、国際連合教育科学文化機関（ユネスコ）がその推進機関に指名されました。

これを受けてわが国では、日本ユネスコ国内委員会や関係省庁が協力し、ESDの推進のため取り組んできました。2006年には内閣官房に設置されたESD関係省庁連絡会議が、わが国におけるESDの実施計画を策定し、同計画に基づいて様々な関係者と連携し、ESDを推進しています。



ESDの概念図

関連する様々な教育を“持続可能な社会の構築”の観点からつなげ、総合的に取り組むことが必要です



わが国のESDの推進体制

■ ESDの目標

- ▶ 持続可能な発展のために求められる原則、価値観及び行動が、あらゆる教育や学びの場に取り込まれること
- ▶ すべての人が質の高い教育の恩恵を享受すること
- ▶ 環境、経済、社会の面において持続可能な将来が実現できるような価値観と行動の変革をもたらすこと

■ 育みたい力

- ▶ 体系的な思考力（問題や減少の背景の理解、多面的・総合的なものの見方）
- ▶ 持続可能な発展に関する価値観（人間の尊重、多様性の尊重、非排他性、機会均等、環境の尊重等を見出す力）
- ▶ 代替案の思考力（批判力）
- ▶ 情報収集・分析能力
- ▶ コミュニケーション能力

■ 学び方・教え方

- ▶ 「関心の喚起 → 理解の深化 → 参加する態度や問題解決能力の育成」を通じて「具体的な行動」を促すという一連の流れの中に位置づけること
- ▶ 単に知識の伝達にとどまらず、体験、体感を重視して、探求や実践を重視する参加型アプローチとすること
- ▶ 活動の場で学習者の自発的な行動を上手に引き出すこと

■ わが国が優先的に取り組むべき課題

- ▶ 先進国が取り組むべき環境保全を中心とした課題を入り口として、環境、経済、社会の統合的な発展について取り組みつつ、開発途上国を含む世界規模の持続可能な開発につながる諸課題を視野に入れた取組を進めていく

以上、“わが国における「国連持続可能な開発のための教育の10年」実施計画”より

※1 ESDは「持続可能な開発のための教育」と訳されていましたが、よりその趣旨を適切に表現するとともに、教育現場への普及を図るため、日本ユネスコ国内委員会の提言により「持続可能な発展のための教育」と訳し、「持続発展教育」と略称しています。

■ 新しい学習指導要領とE S D

2008年3月、幼稚園教育要領及び小学校・中学校の学習指導要領が公示されました。この新しい学習指導要領には、持続可能な社会の構築の観点が入り込まれています。教育基本法とこの新しい学習指導要領に基づいた教育を実施することにより、E S Dの考え方に沿った教育を行うことができます。

小学校 総則

道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を家庭、学校、その他社会における具体的な生活の中に生かし、豊かな心を持ち、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛し、個性豊かな文化の創造を図るとともに、公共の精神を尊び、民主的な社会及び国家の発展に努め、他国を尊重し、国際社会の平和と発展や環境の保全に貢献し未来を拓く主体性のある日本人を育成するため、その基盤としての道徳性を養うことを目標とする。

小学校 社会 第1 目標

社会生活についての理解を図り、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育て、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。

小学校 理科 第1 目標

自然に親しみ、見通しをもって観察、実験などを行い、問題解決の能力と自然を愛する心情を育てるとともに、自然の事物・現象についての実感を伴った理解を図り、科学的な見方や考え方を養う。

中学校 社会 地理的分野

地域の環境問題や環境保全の取組を中核として、それを産業や地域開発の動向、人々の生活などと関連付け、持続可能な社会の構築のためには地域における環境保全の取組が大切であることなどについて考える。

中学校 社会 公民的分野

持続可能な社会を形成するという観点から、私たちがよりよい社会を築いていくために解決すべき課題を探究させ、自分の考えをまとめさせる。

中学校理科 第1 分野及び第2 分野

自然環境の保全と科学技術の利用の在り方について科学的に考察し、持続可能な社会をつくることが重要であることを認識すること。

高校 地理歴史 世界史A

現代世界の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、歴史的観点から資料を活用して探求し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が強調し共存できる持続可能な社会の実現について展望させる。

高校 地理歴史 地理A

環境、資源・エネルギー、人工、食料及び居住・都市問題を地球的及び地域的視野からとらえ、地球的課題は地域を越えた課題であるとともに地域によって現れ方が異なっていることを理解させ、それらの課題の解決には持続可能な社会の実現を目指した各国の取組や国際協力が必要であることについて考察させる。

高校 公民 現代社会

持続可能な社会の形成に参画するという観点から課題を探究する活動を通して、現代社会に対する理解を深めさせるとともに、現代に生きる人間としての在り方生き方について考察を深めさせる。

■ 教育振興基本計画とE S D

2008年7月、改正教育基本法に基づき教育振興基本計画が策定されました。同計画では、E S Dをわが国の教育の重要な理念の1つとして位置づけ、今後5年間に取り組むべき施策としてE S Dの推進を明記しています。

第1章 我が国の教育をめぐる現状と課題

(1) 我が国の教育をめぐる現状と今後の課題

我が国社会を公正で活力あるものとして持続的に発展させるためには、我々の意識や社会の様々なシステムにおいて、社会・経済的な持続可能性とともに、人として他と調和して共に生きることの喜びや、そのために求められる倫理なども含めた価値を重視していくことが求められている。（略）

- ・ 地球温暖化問題をはじめ、様々な環境問題が複雑化、深刻化し、環境面からの持続可能性への配慮が大きな課題となる。教育分野においても、持続可能な社会の構築に向けた教育の理念がますます重要となる。

第3章 今後5年間に総合的かつ計画的に取り組むべき施策

②「縦」の接続：一貫した理念に基づく生涯学習社会の実現

また、ユネスコ(国際連合教育科学文化機関)においては、地球的視野で考え、様々な課題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組み、持続可能な社会づくりの担い手となるよう一人一人を育成する教育（「持続発展教育/ Education for Sustainable Development (ESD)」が提唱されており、2005年から2014年までの10年間は、「国連持続発展教育の10年」と位置付けられている。地球的規模での持続可能な社会の構築は、我が国の教育の在り方にとっても重要な理念の一つである。

④いつでもどこでも学べる環境をつくる 【施策】

◇ 持続可能な社会の構築に向けた教育に関する取組の推進

一人一人が地球上の資源・エネルギーの有限性や環境破壊、貧困問題等を自らの問題として認識し、将来にわたって安心して生活できる持続可能な社会の実現に向けて取り組むための教育(E S D)の重要性について、広く啓発活動を行うとともに、関係府省の連携を強化し、このような教育を担う人材の育成や教育プログラムの作成・普及に取り組む。

特に、E S Dを主導するユネスコの世界的な学校ネットワークであるユネスコ・スクール加盟校の増加を目指し、支援する。

2. ESDとユネスコスクール

ユネスコスクールとは

ユネスコ憲章に示されたユネスコの理想を実現するため、平和や国際的な連携を実践する学校です。世界180の国・地域で8500校以上のユネスコスクールがあります。（2010年3月現在）

参考：ユネスコ憲章（抜粋）

第1条 目的及び任務

- 1 この機関の目的は、国際連合憲章が世界の諸人民に対して人種、性、言葉又は宗教の差別なく確認している正義、法の支配、人権及び基本的自由に対する普遍的な尊重を助長するために教育、科学及び文化を通じて諸国民の間の協力を促進することによって、平和及び安全に貢献することである。

ユネスコスクールの活動目的

- ▶ ユネスコスクール・ネットワークの活用による世界中の学校と生徒間・教師間の交流を通じ、情報や体験を分かち合うこと
- ▶ 地球規模の諸問題に若者が対処できるような新しい教育内容や手法の開発、発展を目指すこと

参加資格

- ▶ 就学前教育・小学校・中学校・高等学校・技術学校・職業学校、教員養成学校は、国公私立を問わずユネスコスクールに加盟することができます
- ▶ ユネスコの理念に沿った取組を継続的に実施していることが必要です

参加校に求められること

- ▶ 法的拘束・義務などはありませんが、各学校の積極的な活動が求められます
- ▶ 年に1度、日本ユネスコ国内委員会に報告書の提出が必要です
- ▶ ユネスコが提案する教材が送られ、教育現場での実験・評価を依頼されることがあります
- ▶ ユネスコから年に数回、世界のユネスコスクールの活動報告が記載されている情報誌が送付されるとともに、ユネスコが行う様々な活動に参加する機会があります

ユネスコスクールはE S Dの推進拠点です

ESDのテーマ

環境教育
国際理解教育
エネルギー教育
世界遺産・地域の文化財等に関する教育
その他、持続可能な社会づくりのための担い手づくりのための教育

ユネスコスクールの研究テーマ

地球規模の問題に対する国連システムの理解
人権、民主主義の理解と促進
国際理解教育
環境教育
その他、ユネスコの理念に沿ったテーマ

ESDとユネスコスクールのテーマが一致

更に、ユネスコはE S Dの主導機関

文部科学省および日本ユネスコ国内委員会では、ユネスコスクールをE S Dの推進拠点と位置づけ、その加盟校増加に取り組んでいます。

ユネスコスクール加盟のメリット

- ▶ 世界のユネスコスクールの活動情報の提供
- ▶ 世界のユネスコスクールと交流する機会の増加
- ▶ 米国、韓国、中国等海外との教員交流
- ▶ 世界の教育事情、国連機関の活動の把握
- ▶ ESDのための教材、情報の提供
- ▶ ユネスコスクールHPを通じた情報交換
- ▶ ワークショップ、研修会への参加
- ▶ 国内の関係機関との連携強化

国際交流の機会の増大

国内の連携強化



ユネスコスクール加盟校にユネスコ本部から送られる認定証



ユネスコスクール加盟校に贈呈されるプレート
(「ユネスコスクール」の表記変更に伴い、プレートの表記も今後変更予定)

ユネスコスクール／ESD 関連事業例（平成22年度の例）

▶ ユネスコスクールESDアシストプロジェクト助成金

<http://www.unesco.jp/contents/help/esd.html>

ユネスコスクール加盟校を対象とし、授業の中でESDを実践する上で必要な教材等の購入資金等の助成を行う。助成金額は1校あたり10万円を上限

▶ 日本ユネスコ・パートナーシップ事業

ユネスコスクール加盟校、加盟申請中の学校を対象とし、ユネスコスクール活動に係る研修会、発表会、成果物作成等に対して1校あたり20万円上限に助成

<ESD 関連事業>

▶ ESD日米教員交流プログラム

ESDを共通のテーマとし、日米間で教員の相互交流、意見交換、共同研究を行うことにより、日米の教育交流とESDの推進を図ることを目的としたもので、日米両国の小中高等学校でESDに取り組んでいる教員を対象とした研修

ユネスコスクールのネットワークの活用や、ESDの取組支援のため、ユネスコスクール ホームページを立ち上げました。

ユネスコスクール ホームページでは、ユネスコスクールとは何か、ESDとは何かという基本情報のほか、ESDの優良事例や教材の紹介、情報発信の場の提供など、ユネスコスクールの取組みを支援するためのコンテンツを用意しています。



ESD教材の紹介



事例のデータベース

ユネスコスクール全国大会の開催

第1回ユネスコスクール全国大会 2009年11月14日
－ 持続発展教育(ESD)研究大会 －

平成21年11月14日(土)渋谷学園渋谷中学高等学校において第1回ユネスコスクール全国大会を開催しました。全国のユネスコスクール関係者、一般教職員、教育行政関係者、教育研究機関等関係者、企業関係者、学生など約350人の参加がありました。

4つのテーマによるワークショップ、6企業によるランチョンセッションが行われ、午後には基調講演及び「持続発展教育の普及発展に関する学校、地域、行政、企業の貢献のあり方」をテーマに有馬元文部大臣らによるパネルディスカッションが行われました。

いずれのセッションも熱心な議論が行われ、ユネスコスクールの重要性とESDの理解が深まり、盛会のうちに終了しました。



ユネスコスクール(ASPnet)申請方法

- 加盟申請から、承認までの流れは下記のとおりです。
- 加盟申請書(様式)はユネスコスクール事務局(下記参照)へ請求するか、ユネスコスクールWebサイトよりダウンロード願います。なお、申請書は英語で記載願います。
- 申請の際は、申請書のほか学校の概要が分かる資料(既存のパンフレット等)の英語版と日本語版が必要となります。

＜加盟申請から承認まで＞

申請書のユネスコスクール事務局(日本ユネスコ国内委員会事務局)へ申請(電話・Email等)

※ユネスコスクールWebサイトからもダウンロード可能です。

ユネスコスクール事務局(日本ユネスコ国内委員会事務局)から申請書様式を受領 必要事項を記入

※申請書の記載内容を事務局で確認をしますので、申請書(案)が完成しましたら、事務局までご連絡願います。

市町村立学校※
の場合

都道府県及び政令指
定都市立の学校※
の場合

私立学校※の
場合

国立の学校※・
教員養成大学等その他
学校の場合

○申請書(学校長のサインを記入)、学校の概要を記した資料(パンフレット等)(※英語)を準備

市町村教育委員会へ提出

都道府県(政令指定都市)教育委員会へ提出

都道府県知事部局へ
提出

ユネスコスクール事務局(日本ユネスコ国内委員会事務局)へ提出

日本ユネスコ国内委員会事務総長(文部科学省国際統括官)よりユネスコ本部へ提出

※ユネスコ本部での手続きに3ヶ月～半年かかる場合がございます。

加盟承認書がユネスコ本部よりユネスコスクール事務局
(日本ユネスコ国内委員会事務総長宛)に送付

ユネスコスクール事務局より各教育委員会・知事部局へ加盟承認書を送付。
各教育委員会・知事部局より各学校へ加盟承認書を送付。

ユネスコスクール事務局
より各学校へ加盟承認書
を送付

＜お問い合わせ先＞

ユネスコスクール事務局

(日本ユネスコ国内委員会事務局・文部科学省国際統括官付)

〒100-8959 東京都千代田区霞ヶ関 3-2-2

TEL:03-5253-4111(内線3402) FAX:03-6734-3679

E-mail:jpnatcom@mext.go.jp

http://www.mext.go.jp/unesco/

※学校＝小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、
高等専門学校、特別支援学校、幼稚園を指します。



ユネスコスクール参加校からの声

■ ユネスコスクール 参加校からのメッセージ（東京都 江東区立東雲小学校）

★ ユネスコスクールに参加しましょう！

本校が参加した頃（平成18年度）には、小学校の参加も少なく、教育大学の附属校や名門校・伝統校の中で、肩身の狭いような思いを感じておりました。また、ESDという新しい視点にどのように取り組んだらよいのか見当も付かず、困っておりました。でも、温かく迎えていただき、思い切って取り組んでこられました。

ユネスコスクールに参加したことで子どもたちにとっては、「より良い未来を創るために、学び、考え、行動しよう」という夢や目標が生まれ、学びの中に自信や誇りが育ったことが最大のメリットです。

また学校にとっては、人権・環境・国際理解といった、従来から重視してきた内容を「持続可能なより良い未来づくり」という視点からとらえ直し、横断的・総合的に関連づけることで、教育を一段と充実させることが可能になりました。

本校では、**ESDカレンダー※**という指導計画を立てることで、学習指導要領で示されている「生きる力」を育む教育の進め方が、より明確になってきました。
（※19ページ参照）

ユネスコスクールになったからといって新しいものを急に作ろうとするよりも、今まで各教科や領域等で取り組んでこられた内容を、ユネスコスクール4つの視点から洗い出して並べてみたり、つないでみたりすれば大切な物が見えてくるように思います。それができあがったら、何とか格好が付いてきます。もし、余力があったら本校のESDカレンダーのようなものを作ってみてはいかがでしょうか。そのことで、教師の中に教科等をつないだ指導への意識が芽生えてくるように思います。

学習指導要領の「総合的な学習の時間」解説書はESDという言葉は一切使っておりませんが、ESDの解説書としても活用できると思います。

いずれにしても、知識・理解を児童に詰め込むことで国際的な学力競争に立ち向かうとしているような学力観だけでなく、「未来を生きる力」を育てる学力観に向かって取り組んでいけたら、この持続不可能になりつつある時代の流れを食い止めることが可能になるように思います。

他に良い方法が転がっているわけでもないのに、いかに厳しくてもこの道を行くしか無いように思っております。子どもたちの成長を楽しみながら、この道をご一緒しませんか。

ユネスコスクール 加盟校からのメッセージ （富山県 富山市立中央小学校）

★ ユネスコスクール に加盟してここが変わった！

- ・ユネスコスクール加盟校を対象にした教材の提供や助成金の活用により、子どもたちの学習や活動が充実しました。
- ・ユネスコキャラバンでカンボジアの方から現地の様子を直接聞く機会が得られ、学校に行くことが当たり前だと思っている子どもたちの価値観に変化が生まれました。
- ・インターネットを活用して他校と交流し、子どもたちが自分たちの取り組みに自信をもつことができるようになりました。
- ・ユネスコ協会からの講師の招聘やユネスコスクール研修会への参加により、教職員や子どもたちのESDへの理解が深まりました。
- ・ユネスコスクールに加盟し、ESDを推進していくことで、自分たちの学校や地域に誇りをもつようになり、保護者や地域の関心も高まりました。そして、子どもたちの活動に対して、温かい励ましや協力をしていただけるようになりました。

★ ユネスコスクール に加盟するにあたって準備したこと

- ・外部講師の招聘や研修会（県外）への参加、東京都江東区立東雲小学校からの助言を基に、ユネスコスクールの役割やESDについて教師全員が共通理解を図りました。
- ・学校教育目標のもと、ESDテーマ「自然にやさしい 人にやさしい 地球にやさしい」を設定し、その視点で日々の教育活動を見直しました。各学年の年間指導計画をもとに、教科、領域、総合的な学習の時間の中から、ESDの視点を拾い出し、関連づけたESDカレンダーを作成しました。
- ・ESD総括（ESDコーディネーター）を校務分掌に位置づけ、各学年間の調整や外部機関との連携、研修の実施など、ESD推進の中心的役割を担うようにしました。また、ESDの核となる「生活科」と「総合的な学習の時間」を中心にした校内研修組織を立ち上げました。



文部科学省の月刊誌「文部科学時報」1月号において、各学年の取り組みの様子や校長へのインタビューなど、富山市立中央小学校のESDへの取り組みが大きく掲載されております。
http://www.mext.go.jp/b_menu/shuppan/jihou/detail/1287866.htm

ユネスコスクール加盟校からのメッセージ（奈良教育大学附属中学校）

★ ユネスコスクールになぜ加盟したか

本校の教育目標や従来から継続して取り組んできた人権学習等の理念とESDの理念には、共通して「いのちを大切にする」という考えがあり、これからも持続可能な未来をつくるための教育の一端を担いたいと願い、ESDの推進拠点であるユネスコスクールへの加盟を申請しました。また、地球規模での課題と向き合い、「持続可能性」を追求しながら、それらの課題を地域の連携の中で解決する方法が、ユネスコスクールの実践の中に蓄積されているとも考えました。

★ ユネスコスクールに加盟して良かったこと

自分たちが進める教育実践をESDの枠組で捉えなおすことによって、それらが持続ある未来社会を担う人を育てるという目標に則ったものになっているかどうかを確認し合うようになりました。日本や世界のユネスコスクールの実践に接することができるのも加盟の大きなメリットです。世界中のなかまが同じ願いを持って実践していることに連帯意識を感じながら、私たちも日々取り組んでいます。さらに海外のユネスコスクールとの交流の機会も得られ、これからの国際理解学習にも意欲を燃やしています。また、国内外の教員や研究機関の方々との人的交流の機会があるのも魅力です。

さらに、同じ奈良のユネスコスクールとの連携・協力が進みつつあることに希望を感じています。生徒会どうしの交流も始まり、地域でのネットワークを力に、日常的で具体的な活動を進めていきたいと思っています。



↑ 奈良市立都南中学校生徒会の皆さんと協同して、ボランティア活動を進める話し合いをしました。

★ ユネスコスクールに加盟して変わったこと

ユネスコスクールの一員としての自覚が教職員にも生徒たちにも生まれ、持続可能な未来のために自分も何かをしなければ、という空気が学校の中に生まれつつあります。

また、ESDを実践していくのにふさわしい学校空間のあり方についても考え、モニュメントづくりやビオトープ、田んぼ造りなどが進んでいます。また、生徒会ではESDのロゴを募集し、「未来にバトンをつなぐために」というコピーもつけてステッカー(下)を作成するなど、自分たちなりの啓蒙活動も始めています。

大切なのは「ゼロから出発しないESD」です。それぞれの学校や地域には豊かな実践や学校文化が、例外なくあります。それらにもとづくESDに取り組むことが肝要であり、私たちも背伸びせず、自分たちが大事にしてきた実践を基盤にしたESDを進めています。



「未来にバトンをつなぐために」

奈良教育大学附属中学校 生徒会

Education for
Sustainable
Development



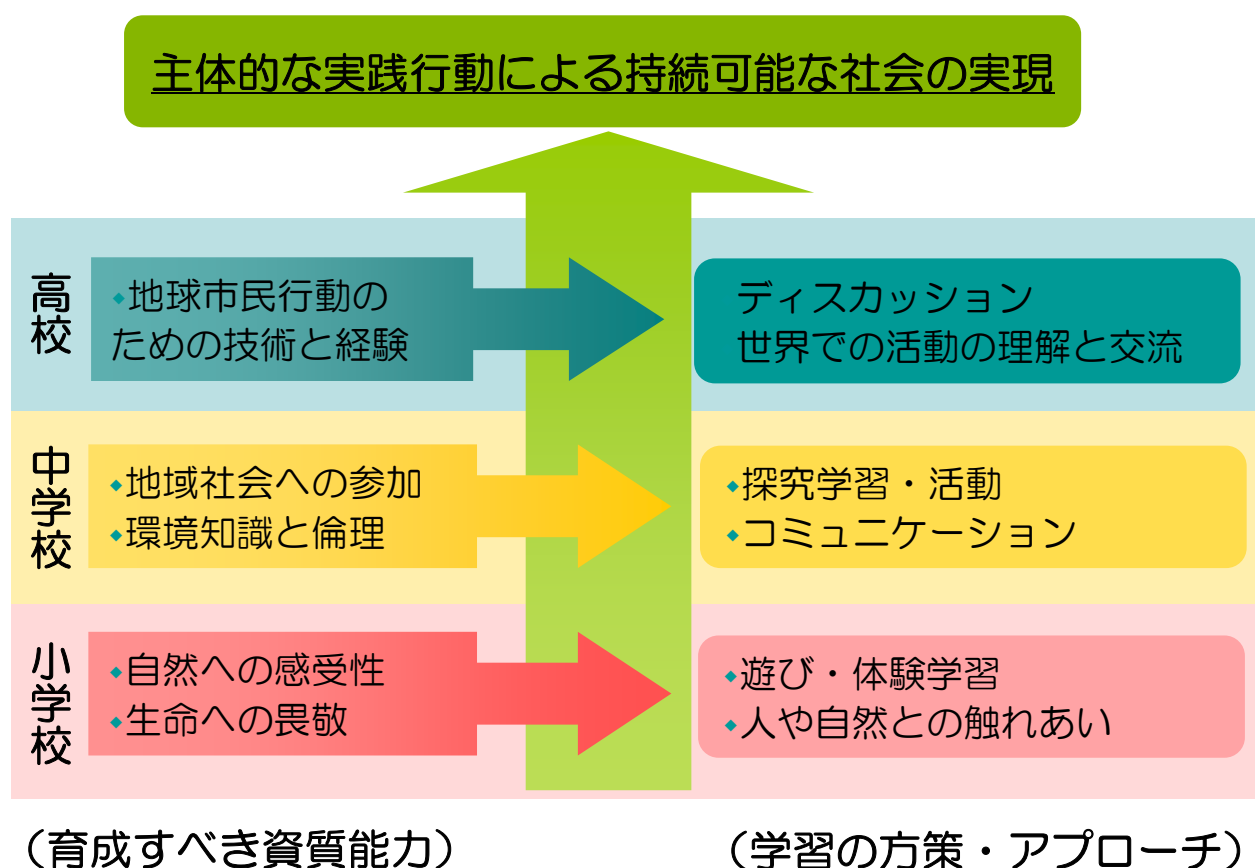
← 生徒会からESDのロゴマーク案を募集し、投票の上、決めたマークです。

「未来につなぐ」ということと、その願いが世界に広がっていくようにという思いを込めて、ESDの文字をつなげ、次第に大きくしました。周囲には奈良の文化をイメージする建築物やシカを、また中央には銀河を描いています。（提案者・生徒会役員）

3. ESDで期待される取組例

小学校・中学校・高校におけるESD実践の例

ESDでは小学校、中学校、高等学校等の連携・交流を通じた系統的な取組が期待されます。



面瀬小・気仙沼高との磯観察



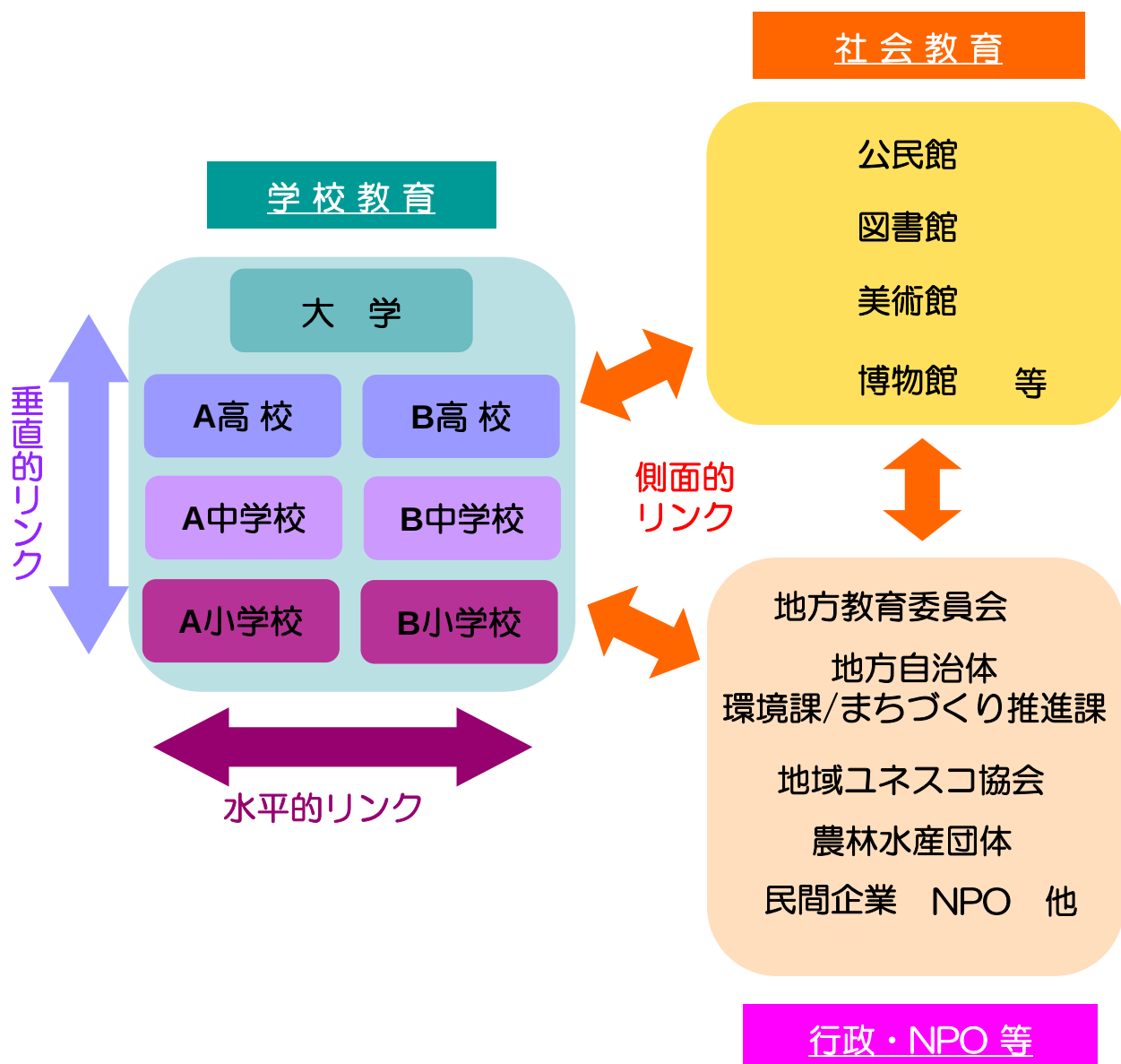
日米小・中・高校教員研修



面瀬小・気仙沼高とのワークショップ

学びのベースとなる 「地域・学校・専門機関との連携」の例

E S Dでは学校教育機関、社会教育機関、行政、NPO等との連携・交流を通じた取組が期待されます。



4. ESDの取組事例

自然にやさしい 人にやさしい 地球にやさしい ～ 富山市立中央小学校からの発信 ～

☆1年生

「みんなだいすき なかよしいっぱい」

四季を通して同じ公園に足を運び、自然とふれ合い、季節を体で感じ、人や自然と親しむ活動をしています。



☆2年生

「ともにいきる」

人や生き物とじっくりふれ合いながら、命を大切にする学習を行っています。ファミリーパークの事業と連携し、農業体験するなどダイナミックな活動を展開しています。

☆3年生

「発見！発信！中央小たんけんたい」

社会科の学習と関連させながら校区を探検し、様々な視点から地域を見直し、これまで気づかなかった地域のよさを感じ取り、パンフレット等にまとめ、発信します。



☆4年生

「地球にやさしいTOYAMAに！」

中央エコキッズが、地域の環境をベースに地球温暖化について調べ、自分たちで実際に行動し、より多くの人といっしょにエコ活動を続けようと発信しています。

☆5年生

「食の向こうに見える世界」

自分たちの手で水田を作り、環境にやさしい米づくりに取り組んでいます。また、有機栽培農家での体験を通して、生産者・消費者の両方の立場から考えています。



☆6年生

「世界の12歳調査隊」

世界寺子屋運動に参加し、世界の現状を知り、自分たちから行動しようとリーフレットを作成して、運動への参加を呼びかけています。

海外との「共同学習」による地球的視野の育成

～宮城県気仙沼市立面瀬小学校の事例～

●日米の水辺環境と人々の生活（マスターティーチャープログラム）

【目標】地球的視野を育むとともに、積極的な環境行動への基礎を養う。

【活動】日米両地域の環境をテーマに観察、調査、採集、飼育などの体験をし、ICTを活用して米国小学校と学習交流を展開する。

気仙沼市立面瀬小学校	(米国)ウイスコンシン・リンカーン小学校
自然と祭りプロジェクト	Halloween & Moon Festival
野菜栽培プロジェクト	School Lunch & Food systems
BUGSマッププロジェクト	Muir woods soil & Insect Study
面瀬サンクチュアリ	Water Study (Creek Project)
海のミュージアム	Pothole Study & Fast Plants
環境未来都市	Box city- Terrace town 2004

Act Locally



(日本)気仙沼市立面瀬小学校

Think Globally

インターネットテレビ会議



Think Globally

Act Locally



(米国)Callisburg Elementary School

郷土愛をつなぐE S D

～奈良市立月ヶ瀬中学校の事例～



【本校の概要】

- ・梅・桜・茶が真心で育つ自然豊かな準へき地の農山村。
- ・身近なところから取り組み、「持続可能な社会」づくりの担い手となる生徒の育成に努力。
- ・地域愛をつなぐE S Dの主なものとして、
①環境・福祉、②産業・伝統・文化、③地域貢献において郷土愛の中で育つ学校づくりを推進。

【主な活動】

**郷土愛をつなぐESD
地域に誇りと愛着を！**



① 環境・福祉

- ・地域支援を得て、14年間毎月アルミ缶回収を実施（年間約30万円の収益金）
- ・地域福祉センターに福祉機具を寄贈
- ・一人暮らし高齢者訪問、ふれあい活動



② 産業・伝統・文化

- ・地場産業：梅採り、茶摘み体験活動
- ・地域学習：梅漬け、煎茶道を継承
- ・郷土学習：ふるさと文化史跡WALK
- ・世界遺産学習：奈良晒、烏梅の保持



③ 地域貢献

- ・カーブミラー、梅林等の地域清掃
- ・花いっぱいプランターの設置・管理
- ・マラソン、体育祭、文化祭等の地域合同事業を通して郷土愛の育成

【成果、課題、展望】

- 地域ぐるみのE S D活動により、地域に誇りと愛着が育ってきた。
- 過疎・高齢化が進む準へき地にあって、力を合わせて地域活性化にチャレンジ。
- 古都奈良の良さを1300年間支えてきた『受け継ぐ心』に触れ、身近なところから取り組み「持続可能な社会」づくりの担い手を育成する。

地域・学校・専門機関との連携

～秋田市立秋田商業高等学校の事例～

総合的な学習の時間「ビジネス実践」における取組
ユネスコスクール班（生徒約 40 名と教員 3 名）が E S D 推進の中心的な役割を担う
2007～08 年度のテーマ 「世界を感じて、足元を見つめなおす」
2009 年度のテーマ 「地球規模の問題に対する国連システムの理解」
2010 年度のテーマ 「アフリカ理解」

独立行政法人国際協力機構東北支部 （JICA 東北）との側面的リンク



アフリカ・スタディツアー（2010 年 1 月）

秋田市立港北小学校との 垂直的リンク



高校生による E S D 出前授業

その他の行政・NPO等とのリンク

外務省総合外交政策局国連企画調整課（本への寄稿）
財団法人日本ユニセフ協会学校事業部
財団法人日本国際協力センター東北支所
財団法人秋田県国際交流協会、秋田ユネスコ協会
特定非営利活動法人秋田国際交流友の会
秋田キャンパスネット など（順不同）



フェアトレード商品の販売（A・A フェスタ）

地域への情報発信



研究発表、新聞掲載、ラジオ番組出演等による

全国への情報発信



出版社（アルテ）と連携した書籍の出版

ユネスコスクール支援大学間ネットワーク

ASPUivNet

ユネスコスクール支援大学間ネットワークとは

ユネスコスクールの活動は、1953年にASPnet(Associated Schools Project Network)として、ユネスコ憲章に示された理念を学校現場で実践するために発足して以来、長い歴史があります。

世界の民間のユネスコ活動の発祥が仙台であったこともあり、2007年仙台的宮城教育大学で行われた「国際理解教育シンポジウム」を契機に、気仙沼市を中心に地域でのASPnetへの加盟申請が一気に増えました。学校教育への大学の協力に加え、申請を大学が支援したことが、推進力となりました

2008年11月には、『ユネスコスクールの集い』が開催され、同様にユネスコスクールの支援を考える大学の関係者が集まり、大学間ネットワークの構築をめざして話し合いました。

同年12月2日～5日『ESD国際フォーラム2008』（主催：文部科学省、日本ユネスコ国内委員会、国連教育科学文化機関(ユネスコ)、共催：国連大学、財団法人ユネスコ・アジア文化センター、宮城教育大学）が、東京の国連大学で開催され、そこで正式にユネスコスクール支援大学間ネットワーク(ASPUivNet)の発足を内外に示すことになりました。

このときの参加8大学が、現在は11大学となっています。



ASPUivNetにできること

ASPnetを支援できる高等教育機関は、環境系、農学系、工学系等、学部や研究科など学部を超えて存在します。

大学等高等教育機関は、ESDに関する優れた教育資源を提供できる能力を備えています。

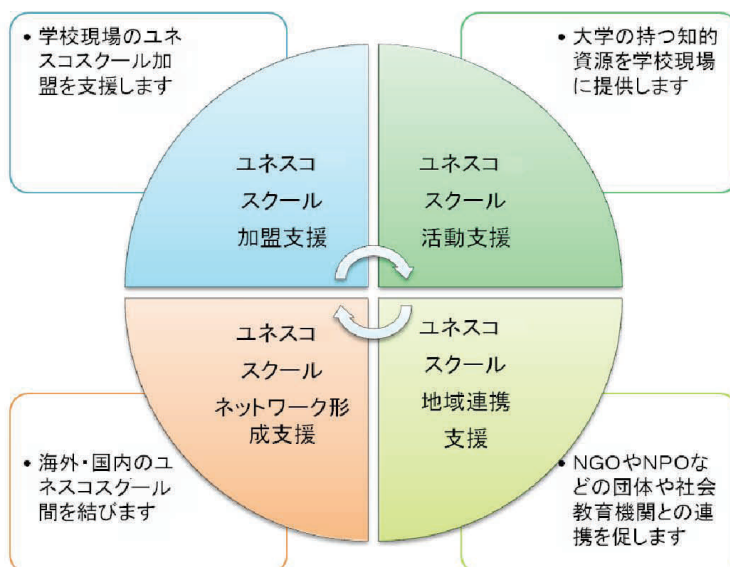
ユネスコスクールへの教育資源の提供を希望するこうした大学のネットワークが、ユネスコスクール支援大学間ネットワーク(ASPUivNet)です。

ASPUivnetの活動は、地域によって異なりますが、以下のようなことが考えられます；

- ①学校のユネスコスクール加盟を支援します。
- ②大学の持つ知的資源をユネスコスクールの活動に提供します。
- ③国内海外のユネスコスクールとのネットワーク作りを支援します。
- ④地域の教育機関とユネスコスクールとの連携を促進します。

〔加盟大学〕

北海道教育大学釧路校(ESD推進センター)、岩手大学、東北大学大学院環境科学研究科、宮城教育大学、玉川大学教育学部、金沢大学、三重大学、奈良教育大学、大阪府立大学、岡山大学、九州大学大学院言語文化研究院(以上2009年12月現在)



ASPUivNet 2010年度事務担当窓口紹介

国立大学法人 宮城教育大学

〒980-0845

宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉149番地

〔教員〕 附属国際理解教育研究センター 教授 市瀬智紀

Tel 022-214-3382 Fax 022-214-3382

〔事務〕 連携主幹付研究協力室

Tel 022-214-3856 Fax 022-214-3342

教科間のつながりの構築

カレンダー

第3学年

(持続可能な発展のための教育)

江東区立東雲小学校

教科領域	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
国語	ありの行列 (生命の尊重) 書き写(自国文化理解) 進んで話し合い発表し よう～インタビュー (表現力・質問力)											
算数	そろばん (自国文化理解)											
社会	わたしたちのまち (地域理解) 地域見学 (地域理解) 区内めぐり (地域理解) スーパーマーケットを調べよう (地域理解) むかしのかし (地域理解)											
理科	植物を育てよう (生命の尊重) こんちゅうを育てよう(生命の尊重) わたしたちのまち 生き物のすみまち (環境・地域理解・地域参加) 花を育てよう・緑をふやそう (環境・異文化理解) わたしたちのまち 誰にもやさしいまち ユニバーサルデザイン・シニア体験 (環境・福祉・人権) エコプロダクツ展 学(環境) 東雲フェス ティバル ユニセフ募金											
総合	ヤゴ救出作戦 (生命の尊重) わたしたちの買い物が世界を変える (環境・異文化理解) 英語活動(表現力・コミュニケーション能力・異文化理解)											
特別活動	パソコン(情報の収集・発信) クリンディ (環境・地域参加) クリンディ (環境・地域参加)											
道徳	太郎山 (郷土愛) トンボのす むまち (動物愛 護) けんたが わすれて いたもの (郷土愛) ハトを助 けて (動物愛 護) 地球にやさ しくくそう (思慮反省) 進んで手助 けしよう (思いやり) このやさし さをほくは すれない (国際理解)											
音楽	「茶つみ」 せっせせしながら (自国文化) 「うさぎ」 (自国文化)											
図工	小さな美術館 (自国文化理解・国際文化理解) みんなのギャラリー (自国文化理解) 外国の友だちの教室から (異文化理解)											
体育	東雲音頭 (自国文化理解)											

教科間のつながりの構築

～国立奈良教育大学附属中学校～

奈良教育大学附属中学校ESDカレンダー											
学年・学期	1 年生			2 学期			3 学期			2 年生	
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
国語	1 学期			2 学期			3 学期			4 年生	
数学	D 世界地図を計画しよう			A 未来をどう見守ろうか (読者の文章)			F よりよい暮らしを (読者の文章)			D 漢字を漢字で (読者の文章)	
英語	C・H 外国の文化を学ぼう			AF 英語学習 (読者の文章)			D 漢字を漢字で (読者の文章)			D 漢字を漢字で (読者の文章)	
社会	DF 世界の文化			DF 世界の文化紹介			DF 世界の文化紹介			DF 世界の文化紹介	
理科	A 地球と生命のつながり			F 自然環境と人間の関係			F 自然環境と人間の関係			F 自然環境と人間の関係	
総合	AD 環境学習			AC 環境学習			AC 環境学習			AC 環境学習	
特別活動 生徒会	C 環境学習			C 環境学習			C 環境学習			C 環境学習	
道徳	A 生活と技術			A 生活と技術			A 生活と技術			A 生活と技術	
技術	A 生活と技術			A 生活と技術			A 生活と技術			A 生活と技術	
家庭	E いろいろな暮らし (読者の文章)			E いろいろな暮らし (読者の文章)			E いろいろな暮らし (読者の文章)			E いろいろな暮らし (読者の文章)	
保健体育	D スポーツと健康 (読者の文章)			D スポーツと健康 (読者の文章)			D スポーツと健康 (読者の文章)			D スポーツと健康 (読者の文章)	
音楽	A 音楽の自然と文化			A 音楽の自然と文化			A 音楽の自然と文化			A 音楽の自然と文化	
美術	A 音楽の自然と文化			A 音楽の自然と文化			A 音楽の自然と文化			A 音楽の自然と文化	

【ESDカレンダー分類記号】A: 環境教育 B: 平和教育 C: 世界遺産教育 D: 多文化共生教育 E: 人権・福祉・健康教育 F: 生涯学習・多面的な視点からの教育

参考教材

【参考教材】

- 「Kids X Change ～子どもが変われば、地球は変わる～」
種類：小学生用教材、指導用教材
作成：ユネスコ/国連環境計画（UNEP）、協賛：日本通運
- 「メビウス ～持続可能な循環～」
<http://www1.miyakyo-u.ac.jp/renkei/mobius.pdf>
種類：取組事例集
作成：気仙沼市教育委員会、宮城教育大学
- 環境教育指導資料[小学校編]
種類：取組事例集
作成：国立教育政策研究所
作成：気仙沼市教育委員会、宮城教育大学
- ESD教材活用ガイドー持続可能は未来への希望
http://www.unesco-school.jp/index.php?action=pages_view_main&page_id=91
種類：取組事例集・解説
作成：ユネスコアジア文化センター

【その他参考教材があるウェブサイト】

- 環境教育関係
 - ・ 自然大好きクラブ：<http://www.env.go.jp/nature/nats/>
- エネルギー環境教育関係
 - ・ エネルギー環境教育情報センター：<http://www.icee.gr.jp/kyouzai/index.html>
- 国際理解教育関係
 - ・ 日本国際理解教育学会：<http://www.kokusairikai.com/>

【参考となる素材があるウェブサイト】

- 環境教育関係
 - ・ 環境教育・環境学習データベース：<http://www.eeel.jp/index.html>
 - ・ こどもエコクラブ：<http://www.ecoclub.go.jp/>
 - ・ えるふえ 環境教育ライブラリー：<http://elfe.miyakyo-u.ac.jp/>
- エネルギー環境教育関係
 - ・ 地球温暖化防止ポータル：<http://www.ondankaboushi.jp/boushi/reclink2-7.html>
 - ・ 全国地球温暖化防止活動推進センター：<http://www.jccca.org/>
- 国際理解教育
 - ・ 国際協力プラザ：<http://www.apic.or.jp/plaza/odakyouzai.html>

国内のユネスコ関係機関

財団法人ユネスコ・アジア文化センター (ACCU)

ACCUはユネスコスクールとともにESDを推進しています

ACCUは持続可能で平和な社会の実現のため、アジア太平洋の人々と協働して、さまざまな事業を行っています。ESDで、ユネスコスクールで、ぜひ一緒にしましょう。

海外との交流

- ・韓国、中国など海外との交流事業
- ・「ESD教育者フォーラム」など



写真上記2点はASEPNet Osaka7カ国・高校生国際会議より



活動のためのヒント

- ・『ESD教材活用ガイド』
- ・ESD好事例集『Tales of Hope 未来へのまなざし』シリーズ、など

ESDを広めよう

- ・ESDフォトメッセージコンテスト & フォトキャラバン(写真展)開催
- ・途上国のESD実践支援・評価
- ・アジア共通マルチメディア教材 PLANET(プラネット)
水・森・ゴミ・防災 & 識字

ユネスコスクール公式ウェブサイト

<http://www.unesco-school.jp>

(日本/ユネスコパートナーシップ事業などで構築・運営)

(財) ユネスコ・アジア文化センター (ACCU)

〒162-8484 新宿区袋町6 日本出版会館

Tel: 03-3269-4435 Fax: 03-3269-4510

E-mail: esd@accu.or.jp ホームページ <http://www.accu.or.jp>



ACCU

Asia/Pacific Cultural Centre for UNESCO

財団法人 ユネスコ・アジア文化センター

〒162-8484 東京都新宿区袋町6 日本出版会館内
Tel: 03-3269-4435 Fax: 03-3269-4510
E-mail: general@accu.or.jp URL: <http://www.accu.or.jp>

(社)日本ユネスコ協会連盟のESD活動

学校プロジェクト

- ◆私のまちのたからものコンテスト <地域学習>
ふるさとの魅力を紹介するスライドショーのコンテスト。
- ◆ユネスコ寺子屋プロジェクト <国際理解学習>
世界の現状を知り、伝え、行動するプロジェクト。
- ◆守ろう地球のたからものプロジェクト <環境学習>
環境教材(無料ダウンロード)を活用したプロジェクト。



社団法人 日本ユネスコ協会連盟

〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1-3-1 朝日生命恵比寿ビル12階
TEL: 03-5424-1121(代) FAX: 03-5424-1126
<http://www.unesco.or.jp> nfujai@unesco.or.jp



ユネスコスクール事業

- ◆ユネスコスクールESDアシストプロジェクト
ユネスコスクールへの活動助成やプレートの寄贈。
- ◆ユネスコスクール研修会
ESDの実践例やユネスコスクールの取り組みを紹介。

守ろう地球のたからものプロジェクト

- ◆「白神山地」周辺地域での植樹
- ◆環境教材、世界遺産教材の寄贈
- ◆「みどりの絵」コンクール



未来遺産運動

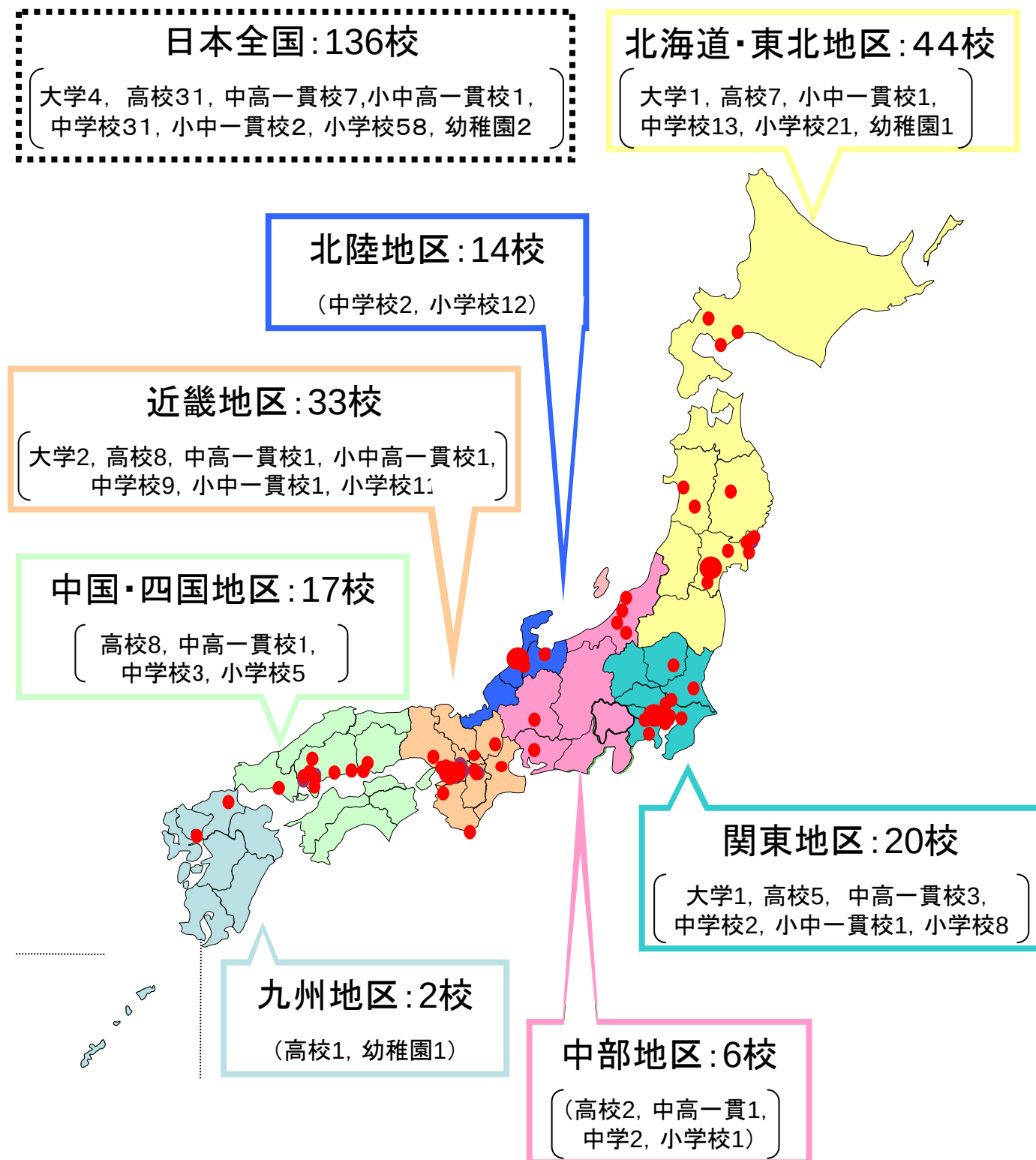
100年後の子どもたちへ
地域の文化・自然遺産を伝える活動

ユネスコ世界寺子屋運動

読み書きができない人たちに
教育の機会を提供する運動

日本のユネスコ・スクール

H22.3月現在



参考: ユネスコ・スクール数の推移

1956年	1960年	1965年	1970年	1975年	1990年	2000年	2005年	2007年	2008年	2009年
6校	27校	22校	25校	23校	21校	20校	19校	24校	61校	136校

日本のユネスコスクール一覧

幼稚園(2校)	
清泉幼稚園	北海道
鳳鳴乃里幼稚園	佐賀県
小学校(58校)	
角田市立東根小学校	宮城県
栗原市立高清水小学校	宮城県
気仙沼市立水梨小学校	宮城県
気仙沼市立浦島小学校	宮城県
気仙沼市立大島小学校	宮城県
気仙沼市立面瀬小学校	宮城県
気仙沼市立鹿折小学校	宮城県
気仙沼市立新城小学校	宮城県
気仙沼市立中井小学校	宮城県
気仙沼市立白山小学校	宮城県
気仙沼市立階上小学校	宮城県
気仙沼市立松岩小学校	宮城県
気仙沼市立月立小学校	宮城県
気仙沼市立落合小学校	宮城県
気仙沼市立唐桑小学校	宮城県
気仙沼市立気仙沼小学校	宮城県
気仙沼市立南気仙沼小学校	宮城県
気仙沼市立九条小学校	宮城県
白石市立白石第二小学校	宮城県
仙台市立中野小学校	宮城県
宮城教育大学附属小学校	宮城県
熊谷市立久下小学校	埼玉県
熊谷市立佐谷田小学校	埼玉県
江東区立東雲小学校	東京都
新宿区立西戸山小学校	東京都
東京学芸大学附属大泉小学校	東京都
小笠原小学校	東京都
母島小学校	東京都
調布市立布田小学校	東京都
富山市立中央小学校	富山県
金沢市立浅野川小学校	石川県
金沢市立朝日小学校	石川県
金沢市立金石町小学校	石川県
金沢市立材木町小学校	石川県
金沢市立四十万小学校	石川県
金沢市立田上小学校	石川県
金沢市立戸板小学校	石川県
金沢市立野町小学校	石川県
金沢市立森山町小学校	石川県
金沢市立弥生小学校	石川県
能美市立粟生小学校	石川県
岐阜市立島小学校	岐阜県
豊中市立上野小学校	大阪府
豊中市立新田小学校	大阪府
松原市立三宅小学校	大阪府
松原市立恵我南小学校	大阪府
奈良市立飛鳥小学校	奈良県
奈良市立帯解小学校	奈良県
奈良市立済美小学校	奈良県
奈良市立佐保小学校	奈良県
奈良市立椿井小学校	奈良県
奈良市立鳥見小学校	奈良県
和歌山市立広瀬小学校	和歌山県
大竹市立栗谷小学校	広島県
海田町立海田東小学校	広島県
北広島町立豊平東小学校	広島県
広島大学附属小学校	広島県
福山市立内海小学校	広島県

小中一貫校(2校)	
興本扇学園	東京都
奈良市田原小中学校	奈良県
小中高一貫校(1校)	
京田辺シュタイナー学校	京都府
中学校(31校)	
岩沼市立岩沼中学校	宮城県
気仙沼市立面瀬中学校	宮城県
気仙沼市立気仙沼中学校	宮城県
気仙沼市立鹿折中学校	宮城県
気仙沼市立階上中学校	宮城県
気仙沼市立新月中学校	宮城県
気仙沼市立唐桑中学校	宮城県
気仙沼市立大島中学校	宮城県
気仙沼市立条南中学校	宮城県
白石市立小原中学校	宮城県
白石市立白川中学校	宮城県
丸森町立丸森東中学校	宮城県
大曲南中学校	秋田県
宇都宮市立一条中学校	栃木県
越谷市立富士中学校	埼玉県
長岡南中学校	新潟県
新潟市立巻東中学校	新潟県
富山大学人間発達科学部附属中学校	富山県
金沢市立紫錦台中学校	石川県
東近江市立五個荘中学校	滋賀県
豊中市立第十一中学校	大阪府
松原市立松原第七中学校	大阪府
奈良教育大学附属中学校	奈良県
奈良市立興東中学校	奈良県
奈良市立月ヶ瀬中学校	奈良県
奈良市立三笠中学校	奈良県
奈良市柳生中学校	奈良県
和歌山市立伏虎中学校	和歌山県
大竹市立栗谷中学校	広島県
山陽女学園中等部	広島県
周南市立太華中学校	山口県
中高一貫校(7校)	
北海道登別明日中等教育学校	北海道
茨城県立並木中等教育学校	茨城県
渋谷教育学園幕張中学・高等学校	千葉県
武蔵野女子学院中学校・高等学校	東京都
燕中等教育学校	新潟県
奈良女子大学附属中等教育学校	奈良県
広島県立広島中学・高等学校	広島県

日本のユネスコスクール一覧②

高等学校(31校)

市立札幌大通高等学校	北海道
盛岡中央高等学校	岩手県
宮城県気仙沼高等学校	宮城県
宮城県気仙沼西高等学校	宮城県
宮城県第二女子高等学校	宮城県
秋田商業高等学校	秋田県
明桜高等学校	秋田県
筑波大学附属駒場高等学校	東京都
東京都立三田高等学校	東京都
渋谷教育学園渋谷高等学校	東京都
八王子高等学校	東京都
神奈川県立有馬高等学校	神奈川県
国際情報高等学校	新潟県
中部大学第一高等学校	愛知県
大阪教育大学附属高等学校池田校舎	大阪府
大阪府立住吉高等学校	大阪府
大阪府立北淀高等学校	大阪府
大阪府立長野高等学校	大阪府
羽衣学園高等学校	大阪府
大阪府立松原高等学校	大阪府
神戸市立葺合高等学校	兵庫県
和歌山県立古座高等学校	和歌山県
岡山県立矢掛高校	岡山県
岡山龍谷高等学校	岡山県
呉三津田高等学校	広島県
山陽女学園高等部	広島県
広島大学附属高等学校	広島県
広島国泰寺高等学校	広島県
福山誠之館高等学校	広島県
広島県立三次高等学校	広島県
福岡県立武蔵台高等学校	福岡県

大学(4校)

国立大学法人宮城教育大学	宮城県
玉川大学(教育学部)	東京都
国立大学法人三重大学	三重県
国立大学法人奈良教育大学	奈良県

2010年3月現在



2008年6月作成
2009年3月改定
2009年7月改定
2010年3月改定

【問い合わせ先】

文部科学省国際統括官付（日本ユネスコ国内委員会事務局）

電 話：03-5253-4111

FAX：03-6734-3679

所在地：東京都千代田区霞ヶ関3-2-2

ホームページ：<http://www.mext.go.jp/unesco/index.htm>

メールアドレス：jpnatcom@mext.go.jp